

令和3年度学校評価について（概要）

1 学校評価の流れ

| | |
|---------------------------|--------|
| (1) 授業アンケート（生徒） | 7月・11月 |
| (2) 学校アンケート（生徒・保護者・教職員） | 11月 |
| (3) アンケート結果まとめ | 12月 |
| (4) 学校関係者評価（開かれた学校づくり委員会） | 1月 |
| (5) 学校評価のまとめ・県教育委員会への報告 | 2月 |

2 学校アンケート結果

今年度の集計と経年比較を掲載しています。

3 学校関係者評価（概要）

(1) 学校経営

ア 「印旛明誠高校に入学してよかった」と肯定的に回答する生徒の割合が、過去3年とも85%を超えているというのは、特筆すべきことである。

イ 「印旛明誠高校に誇りを感じている」と肯定的に回答する生徒の割合が66.2%と、他の項目と比較すると低めである。近隣の小中学校や地域からの評価は極めて高いのだが、生徒自身の誇りにあまりつながっていないのは少し残念だ。

ウ 「本校は安全・安心な学校である」と肯定的に回答している生徒・保護者・職員の割合がすべて95%近くに達しているというのは、学校が概ね順調に運営されていることを示していると思う。

エ 授業観察を行うと、校舎・設備が非常にきれいな状態に保たれていることがわかる。単に新しいというだけでなく、丁寧に使用しているからであり、先生方の指示も行き届いているからなのだろう。

(2) 学習指導

ア 「授業において興味・関心が持てたり理解が深まったりする経験があった」と肯定的に回答する生徒の割合が85%を超え、前年度を上回っている。学習意欲を高める取組が功を奏しているのであろう。

イ 家庭学習に関する質問に対して肯定的な回答をしている生徒・保護者・職員の割合が、一様に低めの値である（すべて6割未満）。学校内では、恵まれた環境を生かし意欲的に学んでいるのだろうが、それが家庭学習にあまりつながっていないのは一つの課題だと言える。

(3) 生徒指導

ア 「自分のことについて、先生方が親身になって相談に乗ってくれている」と肯定的に回答する生徒の割合が84.6%と、高い値を示している。いじめを始め、生徒の様々な問題は、何でも相談できる関係作りが基盤になる。このような環境づくりを継続してもらいたい。

イ 「本校の校則をきちんと守っている」と肯定的な回答をしている生徒の割合が96.3%と、極めて高い。生徒の実態や社会の風潮などを考慮に入れた柔軟な生徒指導が行われているからこそ、なのだろう。地域からの注目が大きい学校なので、これからも服装・頭髪など、規律を守る学校であってほしい。

(4) キャリア教育

ア 進路や行事に関して肯定的な回答をする生徒が多く、経年変化でも上昇傾向がみられる。高校生として今やるべきことを自覚し、将来のことを考えながら生活している生徒が多いというのは素晴らしい。

イ 「生徒の進路指導実現のために、家庭との連携を図っている」と肯定的な回答をする職員の割合が前年度より12ポイント増え、93.6%と高い数値を示している。生徒・学校・家庭と三者が連携してキャリア教育を行い、生徒にとって最適な進路先を模索していくという姿勢を見取ることができる。

(5) その他

ア 「歌詞を見ずに校歌を歌える」と肯定的に回答する生徒の割合が年々減少している。コロナ禍で全校集会を開くことができないということだが、何らかの機会を設けて、生徒皆で校歌を歌うようにしていった方がよいのではないか。

イ コロナ禍での国際理解教育は非常に困難だとお察しするところではあるが、オンラインの活用を推進するなどして、できる限りのことを実施してもらいたい。